

# ロシア材

08年

となったが、主力のロシア材が半減、米加材が12・6%減、南洋材が28・7%減などまとまった減少となった。ロシア材については丸太輸出税引き上げ問題に揺さぶられ、産地価格の上昇もあって北洋材製材のみならず、

んだ。複数の合板メーカーが原料の国産材シフトを加速、製材産業は丸太挽きからの撤退が相次ぎ表面化した。ロシア産地の丸太生産低下により、ロシア国内の製材産業も丸太不足に直面し、製材出荷を鈍化させた。

08年

品目		1~3月
丸太	南洋材	195.91
	アメリカ材	75.78
	ロシア材	530.78
	N乙材	470.36
製材	南洋材	197.52
	アメリカ材	83.51
	ロシア材	668.55
	N乙材	138.23
	チリ材	31.25
その他	欧州製材	99.95
	合板	352.43
その他	構造用集成材	807.01
		71.83

米材丸太は大手の生産減、中堅や小手製材の撤退及び樹種転換などにより、03、04年水準には遠く及ばない。アフリカ材丸太は08年増となった。ただ、前

米材丸太は大手の生産減、中堅や小手製材の撤退及び樹種転換などにより、03、04年水準には遠く及ばない。アフリカ材丸太は08年増となった。ただ、前

## 地域材と金物工法で新たな需要層を

### 製材のグレーディング課題に

地域材活用の研究をしている南宗和氏（京都大学大学院農学研究科森林科学専攻博士課程）は、地域材活用を進めていくうえでムク材で利用できる金物工法の開発が必要と考えている。一般の工務店・ビルダーが容易に地域材を使用するためには、こうした金物の開発が必要なこと、「製材側もグレーディングをしっかりしていくことと、含水率管理の徹底が重要」と南氏は話す。

## インタビュイー

地域材活用を進めて 対応できるということはいくつうて金物工法には重要なことと考えて



京都大学大学院農学研究科 森林科学専攻博士課程

## 南 宗和氏

が普及してきていることも関係しているかもしれない。ドリフトピンの部分が掛かるのは好ましくないが、試験

また、杉板の側面にH型の金物を打ち込み一体化することで床倍率を確保できる工法開発も行っており、地域材の梁と組み合わせて現して使える剛床の開発も地域材活用には必要になってくるだろう。

いる。すでにいくつかの金物工法でムク材対応可能なものは製品化されているが、製材のあばれ、乾燥収縮、節

が課題となっている。金物工法の特徴として、現場の施工精度に左右されにくいことや断面欠損が少ないことなどがある。

製材のグレーディングが重要で、無等級では判断できない。高温乾燥材の内部割れが金物工法にとつては弱点と見られてきたが、比較

木材乾燥は当然重要だが、グレーディングも重要。地域材を挽く製材工場ではグレーディングマシンを備えた工場は少なく、地域材のシエア拡大には製材工場の設備投資も必要になるのではないかと

また、杉板の側面にH型の金物を打ち込み一体化することで床倍率を確保できる工法開発も行っており、地域材の梁と組み合わせて現して使える剛床の開発も地域材活用には必要になってくるだろう。

また、杉板の側面にH型の金物を打ち込み一体化することで床倍率を確保できる工法開発も行っており、地域材の梁と組み合わせて現して使える剛床の開発も地域材活用には必要になってくるだろう。